

矢作川流域圏懇談会通信

H28 山部会編 vol.8



発行日：平成 29年 2月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第8回山の地域部会を開催しました！

1月27日（金）に第8回山の地域部会が岡崎市にて開催されました。今回の地域部会では、平成28年度の山部会の活動報告、流域連携テーマの成果と取り組みを報告・確認するとともに、今後の山部会の活動計画について話し合いました。また、岡崎市と豊田市の森づくりに関する最新動向が周知され、出席者との積極的な意見交換が行われました。

日時：平成29年1月27日
場所：岡崎市「ぬかた会館」 2階2～3会議室
参加者：25名（事務局含む）



◆主な会議内容

1. 今年度の山部会の活動進捗報告



平成28年度は、山部会3ヶ年の活動テーマである①山村再生担い手づくり事例集、②山村ミーティング、③森づくりガイドライン、④木づかいガイドラインの4つのテーマについて、主に以下の項目の情報共有と意見交換を行いました。

①山村再生担い手づくり事例集

事例集作成で構築された人間関係の維持とネットワーク化を図るため、『その後いかがお過ごしですか？プロジェクト』を始動（平成25年度に取材を行った21団体の再訪とレポートの作成）。

②山村ミーティング

- ・流域の森林組合の現状を把握するため、現場作業員を対象とした100人ヒアリングの開始。
- ・矢作川感謝祭を秋の流域全体の恒例行事にするための、実行委員会の立上げ。

③森づくりガイドライン

- ・岡崎市における、水循環に関する新たな動きの周知。
- ・豊田市の森林施策の一部見直し、海外の研修成果に関する報告・意見交換。
- ・森づくりガイドラインの項目案に対する意見交換。

④木づかいガイドライン

- ・木づかいガイドライン策定にむけた「さあ～しよう」という提案型の原稿作成に関する情報共有と他のテーマとの連携の模索。
- ・木づかい推進の実績と今後の活動に対する意見交換。

2. 流域連携テーマの成果と取り組みについて



以下の流域連携テーマについて、各部会WGの中で行った実績が報告され、意見交換を行いました。

- ①ごみ・流木：全国的な活動を行っている（一社）JEANなどとの連携、奥矢作森林フェスティバルで三河湾の生き物を紹介。
- ②土砂：総合土砂管理における給砂実験に関する勉強会の実施、流域の人・物の動きを可能にする広域サイクリングロード構想の意見交換。
- ③木づかい：奥矢作森林フェスティバルへ木づかい推進として参加、流域圏の名刺となる「流域ものさし」の活用方法の検討。

3. 次年度の山部会の活動計画について



平成29年度は、流域圏懇談会の3サイクル目である「課題解決に向けた取り組み実行（実証）」の2年目となります。今後も①山村再生担い手づくり事例集 ②山村ミーティング ③森づくりガイドライン ④木づかいガイドラインの4つのテーマで進めるうえで、次年度（次年度以降）の目標について意見交換を行いました。

4. 森づくりに関する情報提供



《岡崎市水循環推進協議会緑のダム部会の答申案について》

現在、岡崎市水循環推進協議会では、水量に関する重点施策の再構築に係わる市長からの諮問に答えるため、「緑のダム部会」を設置し、協議を行っています。今回は、答申案についてご報告いただきました。また、国（内閣官房水循環対策本部）が募集するモデル実施団体に岡崎市が選定されたため、最新の動向に関して、ご紹介いただきました。

《豊田市森づくり構想等リニューアル方針の素案について》

現在、豊田市では100年の森づくり構想の見直しを2年がかりで行っており、今年はその1年目にあたります。リニューアル方針の素案についてご紹介いただきました。

《額田木の駅プロジェクトの状況報告》

額田木の駅プロジェクトは、昨年度より始まり、今年で2年目となります。今回は、以下に示す進捗状況をご報告いただきました。

- ・昨年度は840t、今年度は現時点で1,100tを出荷した。
- ・地域通貨は、1,000万円分動いた。
- ・取引先は製紙用チップ業者に加え、薪としての流通が始まった。

《特集 内湾から都市のビジョンを考える 三河湾再生と森林管理》

都市計画学会の学会誌に投稿された矢作川流域に係わる内容をご紹介いただきました。矢作川流域圏の現状と矢作川流域圏の取組みが示されており、特に土砂問題がクローズアップされています。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●今年度の山部会の活動進捗報告

- ・山村ミーティングでの森林組合作業班に対してのヒアリングは、次年度に続く内容であり、今年度開始したというのが実績である。(丹羽)
- ・森づくりガイドラインに関しては、これまでの内容が概ね網羅されていると思われる。(蔵治)
- ・木づかいガイドラインに関して、木づかいライブ・スギダラキャラバンの活動一覧や写真を送るので、掲載をお願いしたい。(今村)
- ・上記以外に詳細な修正点がある場合には、2月初旬までに事務局にメールにて伝えること。(蔵治)

●流域連携テーマの成果と取組みについて

- ・広域サイクリングロードに関しては、源流から河口まで自転車で走れるというイメージでよいか。(蔵治)
▶ 自転車でも、徒歩でもよい。その道を通りながら、ゴミを見つけたら捨てるというイメージだ。(大森)
- ・天竜川では、整備によって生じた竹を使って、いかだの材料やメンマなどの食材としている。来年のWGでは、代表者をお呼びし、竹の活用事例について説明してもらいたいと考えている。(今村)

●次年度の山部会の活動計画について

- ・来年度も今年度と同様に月1回のペースでWGを開催するという目標を記載していただきたい。(蔵治)

《山村再生担い手づくり事例集》

- ・交流会に関して、理想は参加団体による別のイベントへの展開である。もし、可能であれば、プレーンストーミングを行ってはどうか。(今村)
▶ 事例集交流会までにWGがないが、事例集交流会を実りのあるイベントとするため、どこかでプレーンストーミングを行いたい。(洲崎)
▶ 全体会議の後に山のメンバーだけ残るのはどうか。場所の確保を事務局にお願いしたい。(山本)

《山村ミーティング》

- ・矢作川感謝祭について、今までの感謝祭は豊田市だけのものであった。次からは流域の山、川、里、海が集う流域の祭りとすることを実行委員会でも確認し合い、豊田市にも働きかける予定である。(丹羽)

《森づくりガイドライン》

- ・茶臼山の北側の森林について、信州大学との連携で、誰でも学べる研修林にしたいという計画が出ている。(今村)
- ・水循環基本法に含まれる森林の水源かん養機能について、事例とガイドラインを作れないかという議論を内閣府水循環推進会議と林野庁に働きかけようとしている。矢作川流域の独自性を入れたガイドラインを国レベルのルールにしていきたいと考えている。(蔵治)

《木づかいガイドライン》

- ・根羽村では、「田舎の親戚制度」を作ろうとしている。これにより、田舎と都市の人がお金を出し合って、木づかいすることで、里山を魅力的な場所に変えることができる。一方で、都市の人は、生きるための技能(作物の栽培方法等)の習得ができる。木づかいガイドラインには、田舎の親戚制度についても示したいと考えている。(今村)

●森づくりに関する情報提供

《水循環推進協議会緑のダム部会の答申案について》

- ・森林に関する自治体同士の比較として、隣接する豊田市との比較も示してほしい。(浅田)
- ・「里山」を使用する際は、定義を明確に示してほしい。(洲崎)
- ・森の健康診断を岡崎で行ってはどうか。特に、額田は日本一の力を持っているので可能だと思う。(丹羽)
- ・河川の水には、表流水と伏流水があるが、湧水である伏流水の流量に着目してはどうか。(井上)
- ・モニタリング方法の確立は画期的だ。市民に簡単にできるモニタリング方法をPRすべきだ。(今村)

《額田木の駅プロジェクトの状況報告》

- ・額田の人口に対して月100tというのは、たぶん日本一だ。(丹羽)
- ・名古屋のリフォーム会社がウッドタイルを開発し、全国に売り出した。額田の地元材を高く買い取れるような仕組み作りを目指しており、大いに期待している。(唐澤)



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

